

## 第 23 回 ちゅうでん教育振興助成（2023 年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	下関市立文洋中学校
コ ー ス	学校支援コース
活動・研究のテーマ	伝統の継承と新たな文化の創造～平家太鼓の実践から

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1 活動に至る経緯

本校では、平成14年から郷土芸能の「平家太鼓」を地域の指導者から学び、様々な行事等で演奏している。また、来年度の「全国中学校総合文化祭山口大会」の開会式で披露する予定である。

「平家太鼓」は、壇之浦で敗れた平家一門の供養の盆踊りに源を発する「平家踊り」に欠かせない、リズムカルで力強い演奏が魅力であり、地域から愛されているものである。下関には「平家おどり保存会」があり、平家太鼓の演奏を行う団体も複数ある。本校においても、地域の伝統芸能を継承することを目的に長年にわたって取り組んでいる。

##### 2 活動・研究の目的（ねらい）

本校では、これまでも総合的な学習の時間等を用いて、太鼓や三味線等の練習を行ってきたが、一部の生徒のみが参加していたため、今年度は全校での取組に広げ、全国大会への機運をさらに高めるとともに、本校独自の「社会に開かれた教育課程」として提案したいと考えている。こうした取組によって、本校生徒の課題の一つである主体性や課題解決能力の育成につながることを目指している。

##### 3 活動内容

今年度は、総合的な学習の時間の探究課題を「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々と関わることで、自分たちにできることを提案する」とし、次の5つのグループに分かれて「平家太鼓」の継承と発展を意識した内容を学校全体で取り組んできた。

	太鼓グループ	踊りグループ	演劇グループ	アートグループ	取材グループ
主な内容	・太鼓、三味線、唄の演奏技能の向上、披露	・よさこい・平家踊りの習得、披露	・平家太鼓にまつわる作品づくり	・平家太鼓にまつわる作品づくり	・平家太鼓に関する調査、各G活動の取材、指導者へのインタビュー等
発表方法	・文化祭発表 ・西部地区文化祭への出演 ・全国大会の開会式（R6）	・文化祭発表 ・西部地区文化祭への出演 ・全国大会の開会式（R6）	・文化祭発表	・文化祭発表 ・公民館等の施設へ展示	・文化祭発表
生徒数	25人	20人	20人	35人	20人
指導者	八音会（平家太鼓の保存会）	馬関奇兵隊（よさこいの活動団体）	劇団新波（地域の劇団）	観光協会など	

今回の活動テーマ「伝統の継承と新たな文化の創造～平家太鼓の実践から～」との関連では、太鼓グループや踊りグループは、主に「伝統の継承」に力を入れ、演劇グループやアートグループ、取材グループは「新たな文化の創造」に向けて取り組んだ。また、各グループの活動は、総合的な学習の時間を軸に取り組んでいくが、今年度は教科等横断的な視点から、特に音楽科の授業等との関連を図り、唄や踊りの技能を高めてきた。さらに、従来は教員が指導する場面が多かったが、今年度は地域の保存会や劇団、よさこいの活動団体等と連携を深め、生徒の活動を支援していただく「支援の輪」を広げた。

【文化祭当日の様子】



文化祭では、平家太鼓のほかにも安徳天皇と現代の中学生を描いた演劇や、よさこいの演技、源平合戦に関する発表、先帝祭等をモチーフにしたピクセルアートの披露など、一貫したテーマによる演技・制作の成果が発表された。

【西部公民館文化祭の様子】

また、校区の公民館で開催された文化祭では、平家太鼓の披露のほか、生徒が地元の食材を使って調理した「ジビエ汁」「梨ジュース」「クレープ」の販売も行い、地域行事の賑わいの一役を担った。

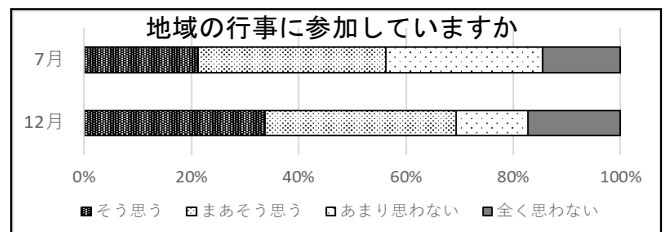
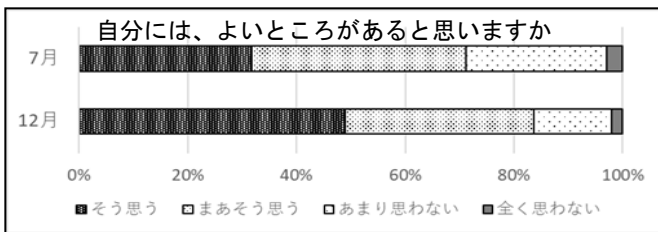


4 子どもたちへの効果（成果・課題）

当初、成果を表す指標として、次の6点を掲げた。

- ・「自分には、よいところがあると思う」
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」
- ・「友達と協力するのは楽しい」
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」

これらの指標について、7月と12月にアンケートを実施した。結果を比較したところ、全体的には肯定的な評価が伸びているものの、微増という結果であった。このうち、「自分には、よいところがあると思う」「今住んでいる地域の行事に参加している」の2項目は他に比べて伸びが大きく、以下のとおりとなっている。



先述の校区の文化祭後に、生徒からは次のような感想が寄せられた。「計画段階で参加できれば、もっとと有意義になると思う」「地域の方々に喜んでもらえることが幸せだと感じた。これがおもてなしというのかな？」また、地域の方からも「文洋中学校の生徒さんのお手伝いのお陰で、本当に助かりました」「生徒さんたちがテキパキ動いてくれて、あっという間に終わり、感心しました」等、好意的な感想を多く頂いた。

一方で、単に「便利」「ありがたい」だけで終わらせずに、伝統文化の継承等を生かした地域貢献を行うことをとおして、地域の担い手としての自覚や地域への愛情を生む機会としたい。また、体系化した学習プログラムづくりは緒に就いたばかりである。今後も継続して取り組んでいきたいと考えている。